

天候不順と食料危機

1. 天候不順（干ばつ）

a. 気候変動による気温上昇と蒸発量の増加

「気温が上がると、地表や河川、土壌から水分が蒸発するスピードが劇的に早まります。」

b. 雨の極端化（豪雨と無降水の二極化）

長期間雨が降らない → 土壌が乾燥 → 農作物が育たない。

c. エルニーニョ現象の強大化

過去より 30%以上強くなり、南米・アジア・アフリカで記録的干ばつを誘発。

d. 人口増加・産業発展による水の過剰利用

灌漑農業や工業で水を使いすぎ、地下水・河川が枯渇。

e. 世界は「水破産（water bankruptcy）」の時代へ

水資源が恒久的に不足する段階に入ったと国連が警告。

2. 食料危機

a. 干ばつによる農作物の減産

「干ばつによる農作物の育たない状況が世界各地で深刻な飢餓や水不足を引き起こす。」

b. 世界的な供給ショック（小麦・トウモロコシ・大豆など）

米国・欧州・ロシアなど主要産地で不作 → 国際価格が急騰。

c. 輸出規制（フード・ナショナリズム）の拡大

インドなどが砂糖・米の輸出を停止し、世界の供給がさらに逼迫。

d. 日本の「買い負け」リスク

円安+他国の大量備蓄で、輸入穀物の確保が難しくなる。

e. 国内の天候不順による生育不良

野菜の小ぶり化、コメの高温障害（白未熟粒）、ダムの取水制限など。

f. 嗜好品の高騰（コーヒー・カカオ・砂糖）

中米・アマゾンの干ばつで壊滅的被害 → 菓子・飲料の値上げ。

g. 飢餓人口の増加（世界で 7 億人以上）

紛争・気候変動・物流混乱が重なり、急性飢餓は過去 10 年で倍増。

3. 求められる対策

a. 灌漑インフラ整備、干ばつ耐性品種の導入

b. 国際協調による食料市場の安定化

c. 日本では備蓄制度の強化、調達先の多角化、スマート農業の推進

d. 個人レベルではローリングストック、水の備蓄が重要